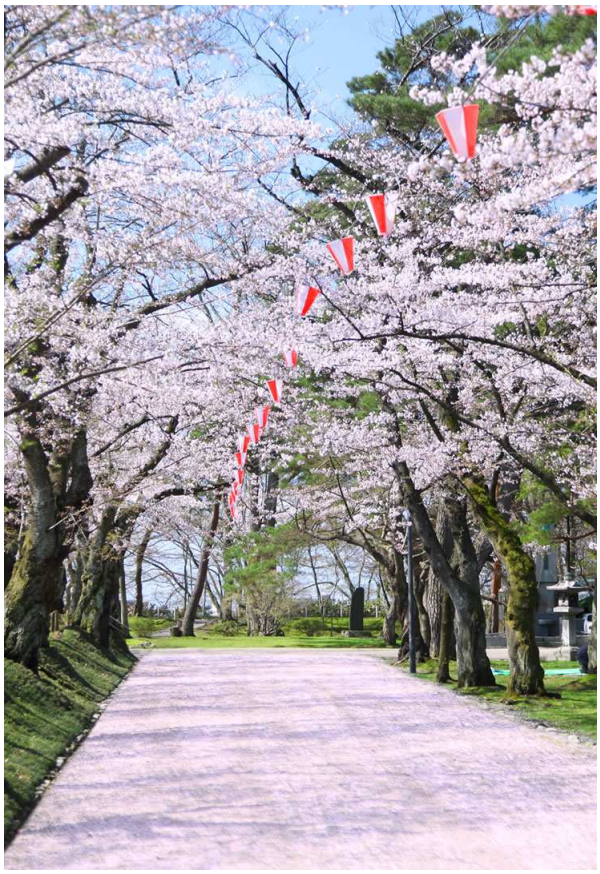
日本女性会議２０１６　秋田

「参加報告書」



みつめて　みとめて　あなたと私

～多様性（ダイバーシティ）とは～

平成２８年１０月２８日（金）

～３０日（日）

日本女性会議
２０１６秋田

江別市男女共同参画推進連絡協議会

江別市生活環境部市民生活課市民協働担当

日本女性会議２０１６秋田　報告

■１日目　１０月２８日（金）

【１３：００～１３：３０　開会アトラクション】

秋田市立保戸野小学校竿燈クラブと秋田市立築山小学校竿燈クラブの児童による竿燈演技がありました。竿燈まつりは、約２６０年前から続いていて、夏の邪気を払い、秋の実りを願い行われています。ちなみに、竿燈には４種類の大きさがあり、大人用の「大若」は５０ｋｇ、中学生用の「中若」は３０ｋｇ、小学生用の「小若」は１５ｋｇ、幼児から小学校２年生用の「幼若」は５ｋｇとのことです。

【１３：４５～１４：１０　開会式】

〇あいさつ

・穂積　志　秋田市長

男女共生社会の実現が叫ばれてずいぶん経ちますが、少しずつ進んではいます。この女性会議を契機に、一人ひとりが輝くようになることを願っています。

・中村　順子　実行委員会委員長

秋田大会のテーマは、「みつめて　みとめて　あなたと私～多様性（ダイバーシティ）とは～」。さまざまな思いや考え方の違いを尊重して受け入れ、性別や年齢、職業、国籍、障がいなどを越えて、多様性を認めあう社会を作っていくことへの想いを込めました。秋田の地でともに学び、考え、語らいましょう。

〇祝辞

・佐竹　敬久　秋田県知事

秋田県は、日本一の高齢県です。企業誘致を行っていた頃、「男子型企業誘致」という言葉を使っていて、これが現在につながってしまいました。女性の県外流出も多いですが、秋田の女性、特に農村部の女性は元気です。また、起業率も高いです。男女の性差なく、自分の能力を発揮できる社会を目指しています。

・渡辺　正宏　秋田市議会議長

秋田大会では、人権や女性の活躍、ワーク・ライフ・バランス、地域づくりなど多様な課題について、議論を深め、男女共同参画を取り巻く諸課題の解決につながっていくものと期待しています。

【１４：１０～１４：４０　基調報告】
「男女共同参画施策の現状と今後の課題について」

内閣府男女共同参画局長　武川　恵子

基調報告の概要は以下のとおりです。

先日、世界経済フォーラムがジェンダーギャップ指数を公表しました。日本は、１４４ヵ国中１１１位で、前年より１０位も下がってしまいました。日本の数値は少しずつ上がっていますが、他の国は更に進んでいるということです。指数を出すための変数が変わったという要因もあります。政治と経済の分野が順位を下げています。

日本の国会議員の女性割合は、世界で１６０位です。ジェンダーギャップ指数が上位の国では、ポジティブアクションを行っています。ストックホルムのクオータ制（候補者名簿の一定割合を女性が占めるよう、憲法や法律などで規定するもの)、アメリカ合衆国などの議席割当制、フランスのパリテ法（男女半々にすべきという考えに基づき、県議会の小選挙区に男女ペアで立候補する）など。

また、日本は管理職の女性が少ない状況にあります。もちろん、すぐ課長になれるわけではなく、キャリアを積まないといけないことから、環境整備とポジティブアクションの両方をやらないといけません。ポジティブアクションについては議論がありますが、対策を行った国と自然に任せた国とでは差が大きくなっています。

日本はこれから、５人に２人が高齢者、１人が大学生以下という時代になります。国の対策として、平成２６年４月から育児休業給付の引き上げを行いましたが、男性の育児休業の取得率は２．０３％から２．３０％に上がっただけで、上手くいかず残念でした。

今年４月から女性活躍推進法が施行されました。推進状況を公表することになり、女性管理職がどれくらいいるかなどが「見える化」されます。

男性の家事育児への参加を政策にしたいと考えています。家事育児時間について、他国では、夫３時間、妻６時間ですが、日本では、夫１時間、妻７時間です。一方、女性の働く時間は他国と日本は同じくらいです。これは、第２子が生まれにくい原因でもあります。

【１５：００～１６：３０　記念講演】
「違いこそが個性を作る、自信を作る、魅力を作る」

ヘア・メイクアップアーティスト　藤原　美智子

藤原さんは、ヘア・メイクアップアーティストになってから３７年、これまでに多くの人に髪型のセットやメイクをしてきました。(天海祐希、鈴木京香、伊達公子、片山さつき、蓮舫など。）その人の魅力や個性を活かしたメイクをしているのとのことです。

この仕事を始めたのが２１歳の時で、しばらくは余裕が無かったそうです。しかし、藤原さんは「素直である」という長所があり（藤原さん曰く「素直さ」は秋田県民の良さとのこと)、成長することができたそうです。

２７歳になって余裕が出てきた頃に「自分の良さって何だろう」と思い始め、透明感の

ある女性、品性のある女性が好きだということに気付き、自分の「好き」を確立しようと思うようになりました。

３３歳のとき、今まで自由に生きてきたが責任のあることをしたいと思い、事務所を作ることをマネージャーに相談したところ、引き止められませんでした。資金もなく、融資もやったことがありませんでしたが、人間、行動したら、そうするしかなくなり、転がっていくものだと感じました。この頃から、講演も行うようになりました。そして、一生懸命やると、限界だと思っていたことが限界ではなくなり、限界を超えるということが楽しくなりました。

３８歳のとき、体が悲鳴を上げ、腰が痛くなり、首も回らなくなってしまいました。これまでのように限界を超えようと思っても心と体がついてこなくなり、それから、自分の体に気遣うようになりました。

４２歳でようやく楽になり、ストレッチも始めたそうです。力が抜けると柔らかくなり、心も楽になってきました。自分に対して余裕が出たら、相手に対しても余裕が出てきたとのことです。

「ヘアメイクだけでなく女優との対談なども出来るようになったのは、隣の芝生を見ることをやめ、自分の個性を活かすようにしてきたからです。それと、行動することが大事で、失敗することもありますが、体験が活きるようすることも大事です。」、「まずは、自分で自分のことを認め、自分の個性を活かすこと。活かすために行動すること。そうすることで、自信が生まれます。これは、人生の法則だと思います。」などの力強いメッセージを送って、講演を締めくくりました。

■２日目　１０月２９日（土）

【９：３０～１１：３０　分科会】

分科会１「女性たちの今。そして未来をつくる。
女性参政権から７０年　雇用機会均等法から３０年」

講師　　上野　千鶴子(認定ＮＰＯ法人ウィメンズアクションネットワーク理事長)
対談者　小松　真希子（理学療法士）
相原　早稀（秋田大学教育文化学部３年）
武田　愛美（秋田大学教育文化学部３年）

報告者：神保　順子

「女性たちの今。そして未来をつくる。女性参政権から７０年　雇用機会均等法から３０年」と題して、上野千鶴子さんの講演と後半の３名の女性市民との対談へ出席させていただきました。

冒頭は、開会式祝辞に内閣府男女共同参画局の武川局長の挨拶にあった「ジェンダーギャップ」から入りました。２０１５年、世界１４４ヵ国中日本の地位は１１１位です。２０１１年は９８位、２０１４年は１０１位ですから、１年で１０位も下がりました。１位

はアイスランド、アメリカ合衆国２８位、中国９１位です。７０年前の女性参政権は、日本を変えられたか？“ＮＯ”。家族票の一部になった。どういう事かと言うと、“あの家は何票ある・・・”と家長の意志がその票になったという事。１９８９年のマドンナ選挙で変わってきました。

１９８５年から、男女雇用機会均等法と手に手を取って進んで来たが、労働者派遣事業法が雇用を破壊しました。金もうけの為に公的機関がピンハネをやっても良いという法を作ったのです。非正規雇用率は４０％となり、女性と若者に集中し、若い女性は最悪です。非正規の内、女性は７０％、若者２０％。昔は、パートはおばさんが主流でしたが、今は新卒から投げ込まれています。非正規は一生働いても喰えない。こんな世の中に誰がした―「あの時あなたは何をした」と言われない為に、女性も選挙権があります。責任があります。政治は人災です。２０１５年6月１２日、国会前で「女の平和集会」を計画しました。近隣を考え、静かにやろうと呼びかけたら、４５，０００人が集まりました。（映像を見せながら）ＮＨＫは政府の出先機関であるから放送はしません。

―言いたいことは言おう。怒りは飲み込むと忘れる。―

怒ったら、世の中変わった事があります。「保育園落ちた。日本死ね！」とブログに出たら、「匿名の何者かわからない者には対応出来ない」と言う国に対し、「保育園落ちたのは私だ！！」と国会前に女性達が集まりました。それで事態は変わりました。たった４０名位の女性達でしたが、これは放映され、無視することが出来なくなりました。

３月に介護保険の３，４被を外す案がある。あんたらに頼らない、“自分でやるわ”と議員になって社会を変えて欲しい。落ちてもいい。元立候補者となり、役所の窓口に行ったら対応が違いますから―。

後半の対談は、４０代のシングルマザーの小松真希子さん、あとの２人は秋田大学３年生の方です。

小松さんの自己紹介は、「“白衣の土方”と言われる理学療法士です。シングルで中学女子の母親です」。“結婚は圧力の生活でしたが、カバン２個を持ち、独立記念日が来ました。親権をめぐって法廷闘争をしました。非正規は親権が取れず時間がかかりました。”と話されました。

非正規になると、同じ仕事でも元の半分の給料になり、辛い経験をしました。今は元の職場に正職で戻れましたが、ずっと若い人より低賃金です。

大学生の方は、父子家庭の方と母子家庭の方でした。お２人とも地元で安定した生活をしていきたいので公務員を目指しています。お１人は、自分の生活を縛られたくないので、子供・結婚は望まない。もう１人は、出来れば働きたくないが、親が働いてと言うので、それなら公務員という事でした。

上野さんが、“公務員は狭き門ですね”と投げかけると、２浪してでもなりたいとの事に、“小松さんのように資格を取ったらどうですか？”“秋田は高齢化率世界一なので、その分野はどうですか？”“安定とほどほどの生活というだけで公務員になってもらいたくない。プロデューサーの能力を持って人を束ねてゆく力のある人でないと税金は払いたくない。”と笑いもありながら本質を突く話に、大学生達も“甘いことはわかっています。”と叱られている様子ではなく、納得のようです。

今の若い人は、“「今日もいい人に出会わなかったわ」症候群が多数。結婚したくないの

なら母親になったらどう？”という問いかけもありました。
“自分は無能でも有能な人を使う能力があればいいんですよ。１人では職場は変えられない。味方・ネットワークを作って、変えてゆこう。”とまとめられました。
“日本女性会議は自治体主催でしょう？これを機会に秋田を改革してほしい”と最後にまとめられました。

分科会２「女性の活躍を進めるために必要なこと、困難なこと
～自分も相手も大切にするアサーティブコミュニケーション～」
対談者　小柳　茂子（相模女子大学人間社会学部教授）
米山　奈奈子（秋田大学大学院医学系研究科教授）

報告者：橋本　梨江

知識が身に付き、更に実生活にすぐに活かせるものをと思い、この分科会を受講させていただきました。概要は、以下のとおりです。
（小柳氏）
女性が自分の感性、個性、能力を発揮し、社会の中で活躍していくために、アサーティブな考え方、行動が役に立ちます。
「アサーティブネス」は、自分も他者も尊重する考え方で、
・自分の気持ち、考えを率直に伝える言動
・状況や関係性に応じた適切（ていねいで簡潔）な表現
・自分の思いを大事にしながら、相手にも同じように発言することを奨励する。相手について知り、歩み寄ろうとする。
ことが大切です。
気負わず、ひるまず、相手に配慮して話すこと、Ｉ（アイ）メッセージで、私はこう思うということを丁寧に言うことが大切です。心の準備や言葉を探すことに普通１～２時間かかるとのことです。
（米山氏）
アサーティブなコミュニケーションを身に付けるためには、自他の境界を尊重することが大切です。そのために、
・他者の世話をする様に自分の世話をする
・まず、自分が心身ともに健康でいられることが基本
・自他の責任の所在を明確にする
ことを心掛けることです。

○２人の対談
（小柳氏）
これまで、女性は男性社会で戦ってきました。アサーティブにより、男性にはどのようなプラスがありますか。

（米山氏）
　男性社会は、上か下かを力で示していて、上司は上からものを言っていました。また、男性には、弱音を吐いてはいけないなど、プライベートで自分の感情をいうことが得意ではない人が、特に年齢が高い人に多くいます。アサーティブは、相手を受け止めるが、甘やかすものではないため、人間的に豊かになります。

○参加者との質疑
Ｑ）攻撃型の人の話を聞くときは、どのようにするとよいですか。
Ａ）こちらも傷ついてしまいます。そのような時は、自分の体は網目でできていると思うようにしています。受け止めてはいるけど、攻撃は突き抜けていくと思うようにしています。

【１４：０５～１５：４５　シンポジウム】
秋田発「ケアリング（気遣いあう）」社会をめざして
～生活の場から「多様性」を考えよう～

コーディネーター　中村　順子
（日本女性会議２０１６秋田実行委員会委員長）
（秋田大学大学院医学系研究科地域生活支援看護学講座教授）
シンポジスト　秋山　正子
（株式会社ケアーズ　白十字訪問看護ステーション統括所長）
（ＮＰＯ法人　白十字在宅ボランティアの会理事長）
菊池　まゆみ
（秋田県藤里町社会福祉協議会会長）
（社会福祉士、精神保健福祉士、主任介護支援専門員）
安藤　大輔
（株式会社安藤醸造代表取締役社長）
（一般社団法人角館町観光協会理事）

　コーディネーター、シンポジストからそれぞれの活動内容を紹介した後、対談形式で進められました。主な内容は以下のとおり。

（中村氏）
　秋田県は、６５歳以上の割合が３６．６％で、出生率は都道府県別で全国４７位です。人口は、現在１０１万人で、２０４０年には７０万人になると言われています。
　東京で訪問介護をしていましたが、秋田に戻ってきました。多様な人々が心豊かに暮らしたいと願っています。この先、団塊の世代が後期高齢者となる「２０２５年問題」がきますが、ケアリングマインドを持つシステムをつくる必要があります。看護で最も大切なことは「ケアリング」です。ケアのシステムをつくることは、人に手を差し伸べることで心温まるまちづくりをすることです。「自分も大切、相手も大切、あなたの話を聞きます」

ということが大切です。

（秋山氏）
住み慣れたまちで最後まで暮らすために、訪問看護、居宅介護支援、訪問介護事業を行っています。以前は、要介護３以上の方を訪問していましたが、もっと気軽に相談できる場所があったらという思いが強くなりました。たまたま、新宿区の牛込地区で、団地の空き店舗を安く貸してくれる人が現れましたので、大学とコラボした「暮らしの保健室」を開設しました。
糖尿病患者に対し、ただ指導するのではなく、一緒に学ぶことが大事だと思っています。
また、１０月１０日に豊洲にマギーズセンターという施設をオープンさせました。ここでは、がん患者やその家族に家庭的で居心地のいい空間を提供し、支える、支えられるが循環する場を目指しています。

（菊池氏）
藤里町は人口約３，５００人で、高齢化率４０％を超えています。社会福祉協議会の「一人の不幸も見逃さない」事業の中に「ひきこもり対策」というのがありました。ごく普通の若者が、ある日突然「ひきこもり」にカテゴライズされているのです。治療ではなく、福祉職だからこそ出来る支援があるはずと考えました。そこで、共同事務所「こみっと」で、ひきこもりの人に工賃を払い、「白神まいたけキッシュ」を作って販売しました。最初は妙な人たちだと思われていましたが、４５０万円売れたと言ったら周りの見る目が変わりました。国は「地方創生」を推進していますが、「弱者」と呼ばれる人たちも何かできるかもしれないと思っています。
また、デイサービスで世話を受けていても、その人はすべてダメになったわけではありません。利用者に食事のモニターをお願いしたら、目が輝きました。その人の力を発揮できるようにしたいと考えています。

（安藤氏）
仙北市角館で味噌・醤油の醸造元をしています。東日本大震災では、秋田県も風評被害を受けました。そこで、震災から６か月後に、「秋田美人１００人キャンペーン」というイベントをやってみました。２，３年目は東京の銀座で行いました。また、武家屋敷の奥にあって普段は公開していない「蔵」を開放して、現代アートの展示を行うイベントを開催しました。震災によって観光客が減ってから、まだ完全に回復したとは言えません。これからのまちづくりは、ないものねだりをしない、コップ半分の水を「まだ半分ある」と思ってやる、好きなことをやるしかないと考えています。

それぞれの活動紹介の後、中村氏が３名に、「皆さんのお話を聞いて、「概念を固定化しない」ということが共通しているように感じました。皆さんの力の源は何ですか。」と問い掛けました。
安藤氏は、「角館は、豊かな観光資源があるわけではありません。他を見ても仕方がないので、今ある資源をどう活かせばいいか考えています。思いがあれば、協力してくれる人

がいます。やれば道は拓けます。」「秋田は、お上に従順なところがあり、観光も、他県はどうやっているかを見ることが多いです。そこに何があるか、まずは自分たちの財産を見なければなりません。」と話されました。

続いて、菊池氏は、「平成２７年頃、一生懸命何かできないか考えましたが、やはりあるもので行うということになりました。町内で、「煮付け」を婦人会で競ったことがあります。それをやってみると、どれが一番かではなく、それぞれ違ってもいいのではないかと思うようになりました。」と話されました。

そして、秋山氏からは、「牛込地区内にある「戸山ハイツ」では、そこに住む意味を考えるような取組を行ってきました。住民のアンケートでは、「戸山ハイツが大好き」が９０％、「戸山ハイツにずっと住みたい」が９２％などの結果が出ました。」という話がありました。

中村氏は、「皆、そこにあるものに丁寧に向き合っていると感じました。秋田の人は横並びが好きなところがありますが、ここの３名は一歩踏み出す方たちだと思います。バリバリのリーダーでなくても、こういうリーダーが必要だと思います。」と応じ、３名の方に「大事にしていることは何か」を尋ねました。

「自分のアイデンティティを持つことがまず大事」（秋山氏）、「思い込みを無くさないといけない」（菊池氏）、「自分の地域を愛することが大事」（安藤氏）とそれぞれ答えました。

中村氏が、「余計なお世話でなく、過大なおせっかいが必要です。それと、規定の概念にとらわれないことも大事です。」などと話され、締めくくりました。

【１３：４５～１４：１０　閉会式】

○あいさつ　穂積　志　秋田市長

秋田市においても、今回の女性会議を契機に、イクボスや男女共同参画の計画を推進していきます。

○次年度開催地メッセージ

苫小牧市は、平成２５年１１月に、北海道で初めて「男女平等参画都市」を宣言しました。昨日の交流会で、市長が「苫小牧市は男女平等参画であり、“平等”にこだわっている」と話しましたが、私（髙橋雅子実行委員長）は市長よりも“平等”にこだわっています。来年の女性会議は、「オール苫小牧」で皆さんを歓迎します。

○大会宣言　中村　順子　実行委員会委員長

私たちは、互いに尊重しあい、一人ひとりの個性や能力が発揮できるよう、まず自らを見つめ、自分自身の中にある偏見や差別に真摯に向き合います。そして、人と人との間にある壁や厳しい現実から目をそむけずに、率直に人と接することから始めます。私たちは、多様性を受け入れることから始まる、全ての人が自分らしく暮らせる成熟したまちづくり、地域づくりを目指します。

私たちは、だれもが豊かな暮らしを実感できるよう、それぞれの思いを伝えあい、気遣いあう社会を目指し、一人ひとりができることをできるところから行っていきます。

私たちがはじめる秋田からのささやかな取組みが、次世代に引き継がれ、いつの日か、誰もが笑顔で暮らせる真に多様性を認めあう成熟した社会が実現することを強く望みます。そして、今、ここから、その実現に向けて行動します。

■全体を通して

秋田市は、駅周辺に公共施設が揃い、美術館も市立、県立とあって、散歩の範囲に秋田市の前身の久保田城跡の千秋公園がこんもりとした森の中にあります。城主の佐竹氏の略系図の頂点には天皇がいます。３日目に、佐竹資料館を見学しました。慶長７年（１６０２年）に秋田に転封、翌８年に久保田城の築城を始めるとあります。初代佐竹義宣から１２代義堯まで城主が続き、明治５年、本丸（千秋公園）において秋田県庁開庁式をあげる、とあります。現秋田県知事　佐竹敬久さんは、その一門の方と紹介されていましたので、北海道とは違う遠い歴史を感じました。消滅都市のトップランナーと言いますが、地元を愛する背景が判ったように思います。ありがとうございました。

江別市男女共同参画推進連絡協議会　神保　順子

日本女性会議では、現在国が進めている施策の話、生き生きとした女性の体験談、実際に活動や研究をされている方からの講演などを聞くことができました。

体験談や実践談などに共通していたことは、まずは「自分を認めること」で、自分が好きなことは何か、やりたいことは何かを見つめることが大切とのことでした。自分に余裕がないと他人を思いやることはできません。そして、行動することも大切です。自分を認め、相手を認めるということを一人ひとりが意識することが、男女共同参画社会の実現につながっていくということを感じました。

もう一点、秋田県出身者のお話に共通していたことは、「秋田の人は秋田が好き」ということです。この女性会議への参加を通して、秋田の良さに触れることもできました。

貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。

江別市生活環境部市民生活課市民協働担当　橋本　梨江

※本報告書で氏名の記載がない箇所は、橋本が文章を作成しています。